

2014年2月9日 「基元節祝賀総動員特別礼拝」 石川祐司教会長

以下に、「基元節の意義」と「聖婚式の意義」を掲載いたします。

< 基元節の意義 >

- ① 神様の実体であられる真のお父様（文鮮明師）と神様の妻である真のお母様（韓鶴子女史）が第三次「真の父母様聖婚式」を挙げる日。
- ② 神様の家庭（創造本然の理想家庭）が出発する日。
- ③ 創造本然の理想家庭の拡張を通して、実体的天一国（神様の祖国）の始発となる日。
- ④ 神様を中心に侍り、新天新地を開き、永遠なる解放、釈放を謳歌される永生の新たなる日。

（以上、白井局長の解説より）

< 基元節式典「天地人真の父母様聖婚式」の意義 >

第三アダム立場で生まれた文鮮明師は、再臨主の使命をもって神様から遣わされたお方です。しかし、イエス様と同様に、今日までキリスト教によって偽キリストとして迫害され、6度の獄苦を通過されました。その苦難の路程の中で1960年に韓鶴子総裁と「聖婚式」を挙げるされ、以後、53年間の歩みの中で、人類の「真の父母」としての使命を果たして行かれました。

文鮮明師ご夫妻の主礼によって挙げるされる祝福結婚式は、人間始祖アダムとエバによって生じた「原罪」を清算するための厳粛な式典なのです。1960年の「聖婚式」は、成長期間の途中の長成期完成級で行われた結婚式でした。文鮮明師は、次のように語っておられます。

「1960年が、いったいどの基準であったか？ 墮落したアダム、エバの立場、長成完成級の基準である。長成期完成級基準を中心として完成圏まで上がるには……7年の期間が必要である。……完成基準に立ち入る時は神の直接主管圏に入る」（『祝福家庭と理想天国（Ⅱ）』28～29ページ）

完成したアダム文鮮明師が、長成期完成級まで下りてこられ、韓鶴子総裁と結婚されたのが「長成期完成級」の位置であったということです。これが1度目の結婚式です。原罪を清算し、この勝利によって長成期完成級の位置を越えていくのが国際合同祝福結婚式なのです。それゆえ、完成期の基準にまで上がって神様の直接主管圏においてなされる祝福式が必要です。文師は以前から「3度、結婚式を挙げるしなければならない」と語っておられ、また「祝福は、重生、復活、永生の3段階の祝福を経るようになっています」（『平和神経』34ページ）とも明言しておられました。実際に、文師ご夫妻の2度目の結婚式は、2003年2月6日、韓総裁が還暦を迎えられた時に挙げるされました。これは、神様の直接主管圏に入った立場における「聖婚式」でした。この2003年の2度目の「聖婚式」のときも、世界の祝福

家庭（既存家庭）がともに参加して祝福の恩恵に与りました。

そして昨年、文師は 2013 年 2 月 22 日（天曆 1 月 13 日）に举行される 3 度目の聖婚式のための聖酒を準備され、「全て成した」として、摂理の完成・完結・完了を宣言しておりましたが、同年 9 月 3 日、聖和（逝去）されました。2013 年 2 月 22 日の「聖婚式」は、文鮮明師・韓鶴子総裁が、人類の「真の父母」としての使命を完了し、直接主管圏でゴールされた位置で举行される最後の祝福式であり、歴史的な記念行事として位置づけられたものでした。3 度目の「祝福」の恵みに与るために、全世界の祝福家庭（既存家庭）が共に参加してお祝いをする「天一国基元節入籍祝福式」も同時に行われました。